



1 オナガガモ

冬の間に日本ですごすために、各地の湖や池、川、干潟などにやってきます。その名のとおり、オスは尾が長いのですが、メスはオスほど長くありません。エサをとるときは、水に頭をつっこんで、まるで逆立ちしているような姿で、水底にある水草の葉・根などを食べます。



エサをとるオナガガモ

2 ふゆどり 冬鳥

日本より北の地方で繁殖し、秋に日本にやってきて冬をすごし、春にふたたび北へ帰っていく渡り鳥を、冬鳥といいます。ジョウビタキは、町中でも見られる冬鳥で、大きさはスズメくらい、オレンジ色のお腹と、つばさの白いもようが特徴です。「ヒッヒッ」と甲高い声で鳴き、なわばりを主張します。



ジョウビタキ オス



ジョウビタキ メス

3 ゴマダラチョウ

虫たちは、成虫、サナギ、幼虫、卵など、いろいろな形で冬を越しますが、ゴマダラチョウは、幼虫の形で冬を越す虫のひとつです。

ゴマダラチョウの幼虫は、冬の間エノキなどの落ち葉のうらにくっついて、じっとしています。春にエノキの新芽が出てくると、木に登って新しい葉を食べ、やがてサナギになり、5月頃成虫になります。

ゴマダラチョウの幼虫



ゴマダラチョウ